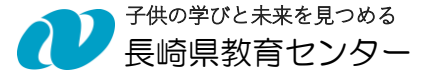
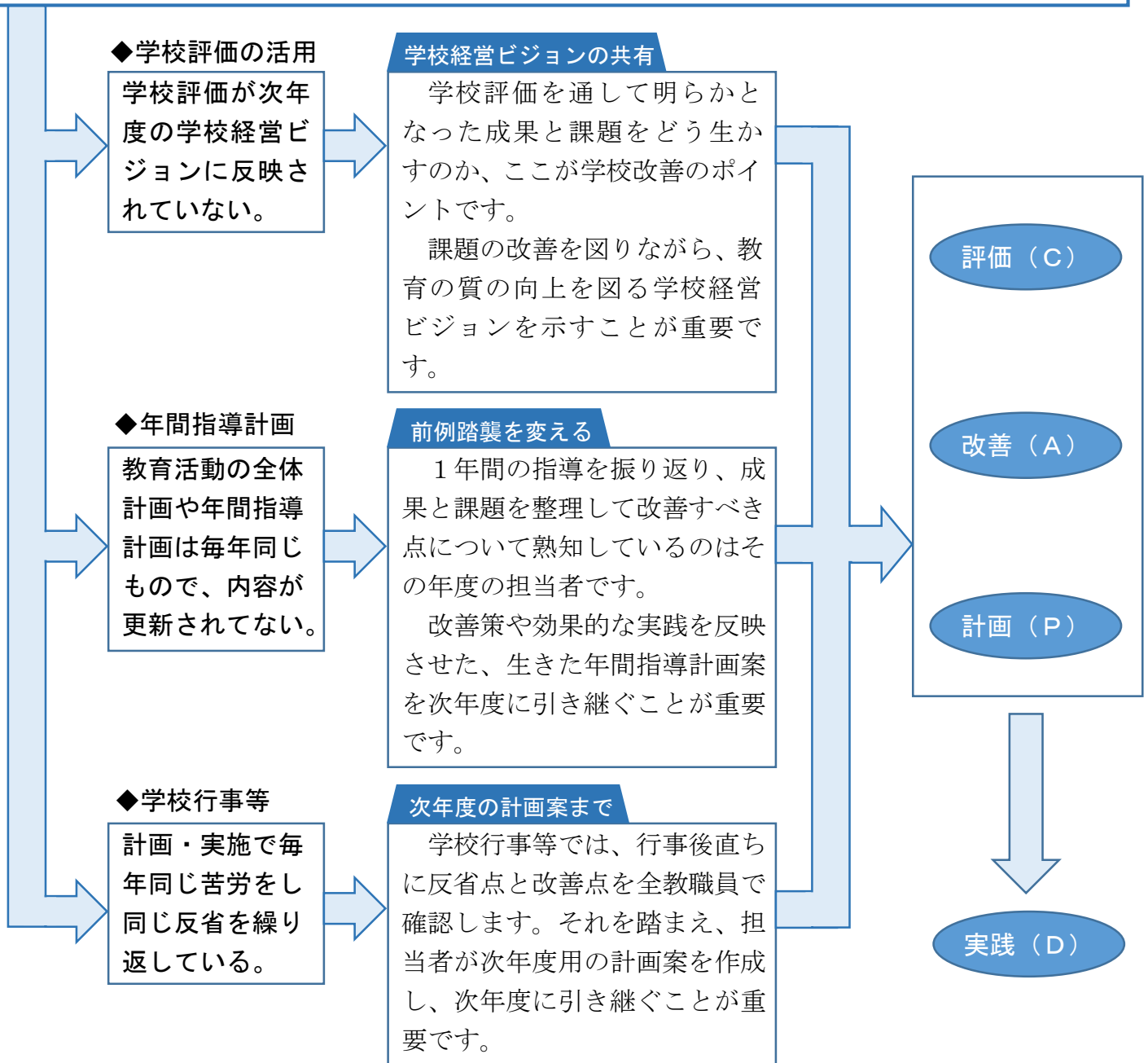


年度をつなぎ教育の質を高める



第1号では、P D C Aサイクルの確立を最優先課題としてカリキュラム・マネジメントを始めることを提案しました。今回は、P D C Aサイクルの中でも年度と年度をつなぐところに焦点を当てます。この年度をつなぎは、岐阜大学大学院の田村知子先生の講演では、「評価から始めるマネジメントサイクル」(C A P - D)として紹介されました。本年度の教育実践を評価し、次年度の構想・計画につなぐ大切な視点です。

教育活動の全体計画や年間指導計画等に前年度の評価・改善はしっかりと反映されてきたでしょうか。教職員が入れ替わっても、評価・改善・計画(C A P)が次年度に確実につながる仕組みが必要です。左下(◆)に示すような課題がないか本年度の取組を振り返ってみましょう。



	視 点	チェックリスト
学校経営ビジョンの共有	「CAP-D」のマネジメントサイクルには、学校がどのような姿を目指すのか、子どもたちにどのような資質・能力を育むのかを明確にしておく必要があります。この1年間で目指す姿を具体的な言葉にし、全職員で共有することがCAPからDへの流れになります。そうすることで、学校経営ビジョンを日々の教育活動の実践（D）につなぎましょう。	<input type="checkbox"/> 改善策を踏まえた学校経営ビジョンが示されているか <input type="checkbox"/> 学校経営ビジョンと改善策が全職員で共有されているか
前例踏襲を変える	学校の強みや教職員の創意工夫を生かし、課題を改善する視点で練られた計画は、教育の質を高める基盤となります。多忙な中ですが、改善意識をもって具体的な方策を考え、次年度につなぎましょう。また、年度途中でも実践しながら計画への気付きや改善点を蓄積していきましょう。	<input type="checkbox"/> 前例踏襲ではなく、改善の意識は教職員に浸透しているか <input type="checkbox"/> 実践中の気付きを次年度に生かす意識は教職員に浸透しているか
次年度の計画案まで	改善策を反映させた次年度用の実施計画案が作成され、そこに新年度の学校経営ビジョンが反映されて、そこから「D」が展開されます。カリキュラム・マネジメントの充実を図るには、このような取組を学校文化として根付かせることが大切です。年度が変わることで「CAP」の流れを分断させてしまうのではなく、年度と年度をつなぎ、質の向上を図っていきましょう。	<input type="checkbox"/> 課題を解決する改善策が定められているか <input type="checkbox"/> 計画案は新年度に引き継がれているか

評価から始めるカリキュラム・マネジメント！

今回のポイント！

評価・改善・計画を一気に行い、年度をつなぐ

- ビジョンの共有** : 学校評価等の客観データを根拠に、これから目指す学校経営ビジョンを示し、全職員で共有しましょう。
- 前例踏襲を変える** : 改善意識をもって教育活動を実践し、気付きを次年度につなぐ意識を全職員で共有しましょう。
- 次年度計画案作成** : 評価（C）・改善（A）から、次年度の計画案（P）を年度内に作成し、引き継ぎましょう。これにより教育の質が高まります。

次号では、「教科をつなぐ」（教科横断的なカリキュラム・デザイン）についてお知らせします。